

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本文化学科	夜・通信	4	64		68	13	
	史学科	夜・通信				68	13	
	社会学科	夜・通信				68	13	
	心理学科	夜・通信				68	13	
外国語学部	外国語学科	夜・通信	4	64		68	13	
	国際日本学科	夜・通信	4			68	13	
教育学部	教育文化学科	夜・通信	4	64		68	13	
	初等教育学科	夜・通信	4			68	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	4	64		68	13	
	国際経済学科	夜・通信	4			68	13	
	地域経済学科	夜・通信	4		62	66	13	
	経営学科	夜・通信	4	64		68	13	
	観光経営学科	夜・通信	4			68	13	
法学部	法律学科	夜・通信	4	64		68	13	

	政治学科	夜・通信	4			68	13	
医学部	医学科	夜・通信	4	24	332	360	19	
薬学部	薬学科	夜・通信	4	25	98.5	127.5	19	
理工学部	機械・精密システム工学科	夜・通信	4	28	54	86	13	
	航空宇宙工学科	夜・通信	4		60	92	13	
	情報電子工学科	夜・通信	4		58	90	13	
	バイオサイエンス学科	夜・通信	4		25	57	13	
	情報科学科	夜・通信				24	24	13
医療技術学部	視能矯正学科	夜・通信	4	18	105	127	13	
	看護学科	夜・通信	4	24	127	155	13	
	診療放射線学科	夜・通信	4	24	85	113	13	
	臨床検査学科	夜・通信	4	24	101	129	13	
	スポーツ医療学科 (救急救命士コース)	夜・通信	4	22	100	126	13	
	スポーツ医療学科 (健康スポーツコース)	夜・通信	4	102		106	13	
	スポーツ医療学科 (トップアスリートコース)	夜・通信	4			106	13	
	柔道整復学科	夜・通信	4		72	76	13	
福岡医療技術学部	理学療法学科	夜・通信	4	8	111	123	13	
	作業療法学科	夜・通信	4	8	108	120	13	
	看護学科	夜・通信	4		96	100	13	
	診療放射線学科	夜・通信	4		86	90	13	
	医療技術学科 (救急救命士コース)	夜・通信	4	7	82	93	13	
	医療技術学科 (臨床工学コース)	夜・通信	4	7	48	59	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにより、公表している。

https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにより公表している。
https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	2022年5月 29日から 2026年5月 28日	企業での経験や知見 を本学運営に役立て る
非常勤	株式会社 役員	2022年5月 29日から 2026年5月 28日	企業での経験や知見 を本学運営に役立て る
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書(シラバス)の作成過程 授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、各学部の教務担当事務へ提出。記載内容について第三者(担当教員及び事務部)のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。 ・ 主な記載内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意識を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。 ② 授業の到達目標…当該科目が、学部等がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちどの部分を担っているかに留意し、「〇〇できる」等の表現にて示す。また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。 ③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一にS・A・B・C・Dで表し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。 ④ 授業形態…講義、演習、実験、実習、実技の別を記載。複数の組み合わせの場合は、そのすべてを記載。 ⑤ 各回の授業内容(年間の授業の計画)…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。 ⑥ 教科書・参考資料…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。 ⑦ 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な内容とかかる時間を記載する。 ⑧ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。 ⑨ 実務経験のある教員による授業…担当教員が実務経験を有しており、担当授業科目が実務経験に関連する場合は、実務経験を基にどのような授業を行うかを記載。
--

<p>・ 授業計画書の作成・公表時期 前年度の12月ごろより、各教員に原稿の作成を依頼し、上記の作成過程を経て、3月末までにホームページ上に公表し、予め学生に対して周知する。</p>																												
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose</p>																											
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																												
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>・ 各授業科目の授業計画書（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。</p>																												
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>																												
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>・ 学修の成果を客観的な数値で評価する成績評価制度として、GPA制度を導入している。</p> <p>・ 客観的な指標の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>評価</th> <th>GPA</th> <th>成績評価基準</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>S</td> <td>4.0</td> <td>90点以上</td> <td>特に優れた成績</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>3.0</td> <td>80点台</td> <td>優れた成績</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2.0</td> <td>70点台</td> <td>妥当と認められる成績</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1.0</td> <td>60点台</td> <td>合格と認められる最低限の成績</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>D</td> <td>0.0</td> <td>60点未満</td> <td>合格と認められる最低限の成績に達していない</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ GPAの算出方法 $\frac{4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}}{\text{卒業単位数における総履修登録単位数 (Dの単位を含む)}}$</p> <p>・ 予め設定した上記の算出方法をホームページ等により学生に周知し、各学生の履修科目の成績に基づき算出している。</p>		区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	合格	S	4.0	90点以上	特に優れた成績	A	3.0	80点台	優れた成績	B	2.0	70点台	妥当と認められる成績	C	1.0	60点台	合格と認められる最低限の成績	不合格	D	0.0	60点未満	合格と認められる最低限の成績に達していない
区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容																								
合格	S	4.0	90点以上	特に優れた成績																								
	A	3.0	80点台	優れた成績																								
	B	2.0	70点台	妥当と認められる成績																								
	C	1.0	60点台	合格と認められる最低限の成績																								
不合格	D	0.0	60点未満	合格と認められる最低限の成績に達していない																								
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose</p>																											

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>・ 本学の卒業の認定に関する方針は、学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記載したものと捉え、各学部・学科で定めた教育目的に則し、養成すべき人材像を記載するとともに、学生の立場から行動目標を定義し、簡素な文章で箇条書きしている。この記載により、学部・学科が保証する最低限の学修成果を明確にしている。また、大学、各学部、学科の卒業の認定に関する方針は、ホームページ上において公表している。</p> <p>なお、各学部・学科における卒業の認定に関する方針に基づき、筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等の適切な方法により学生の学修成果を評価し、卒業に必要な修得単位数を満了した者について、卒業認定を適切に実施している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.teikyo-u.ac.jp/university/finance/finance/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/certification
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose ）
（概要） 文学部は、建学の精神に則り、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、知の方法としての教養を育む。教育指針の一つである「国際性」、「開放性」を通して、専門的知識と幅広い教養を持つ人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy ）
（概要） 文学部は、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、専門性と幅広い教養を持つ人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 1. 広範で多様な人文科学領域の基礎的知識を修得し、豊かな人間性と倫理性を持って問題発見と問題解決の能力を有する。 2. 各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸課題に多角的な観点からの確に対応できる。 3. 国際的視野に立ち、必要な知識・技術を偏ることなく学び、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy ）
（概要） 学位授与に要求される能力を修得するために、文学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。 1. 専門科目を学ぶための基礎科目を 1 年次に必修科目として配置し、学年進行に合わせて段階的な学習の積み上げを可能とする科目構成を編成する。 2. プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を養うとともに、多様で複雑な諸課題に取り組む姿勢の醸成に向けて「ライフデザイン演習」、「基礎演習」、「演習」など少人数教育科目を設置する。 3. 教育指針である「国際性」「開放性」を重視し、社会で通用する実践的な科目を編成する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy ）
（概要） 文学部は、学問の原点に立ち返ると同時にさまざまな職業の実践にも応用の利く、専門性と幅広い教養を持つ人材の育成を目指しています。 文学部で学ぶことは、自己と世界を人間の本質に根ざした多様な観点から問うことです。そのため、人文科学の基本的知識やスキルの修得においても、各自の問題意識を大切に、広い視野、そして深い洞察力・思考力を有することが求められます。よって、高等学校等において基本とされる科目を幅広くかつ主体的に学んでおくことが極めて重要です。高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 専門的知識と幅広い教養の修得に必要な基礎学力としての知識を有している。
2. 豊かさや幸せなど私たちが感じるものについて、自らの力で問いを立て考える意欲がある。
3. 他者との討議を含めて課題を多面的かつ論理的に考察できる。
4. 国際的な出来事に関心を持ちながら、豊かな想像力・表現力を通してそれぞれの社会の発展に貢献する意欲がある。

学部等名 外国語学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose)
(概要) 外国語学部は、建学の精神に則り、専攻する言語を修得し、当該言語を使用する地域の文化・歴史・社会に対する学識を深め、グローバル共生の基礎となる異文化理解能力を身につけ、国際社会に貢献できるグローバル・シチズンを育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 外国語学部は、建学の精神および教育指針である「実学・国際性・開放性」に適い、国際社会がもつ様々な課題の解決に貢献できるグローバル・シチズンの育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の言語による実践的言語コミュニケーション能力を有する。 2. 異文化に対する幅広い知識と体験に基づく異文化接触によって培われた、実践的異文化理解能力を有する。 3. 世界各地の文化・歴史・社会に関する知識を基に、国際社会で貢献できる幅広い教養と知識をもち、それを活用して国際社会全体やそれぞれの地域社会が直面するさまざまな課題に取り組むことが出来る能力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 学位授与に要求される能力を修得するため、外国語学部は、以下のような方針でカリキュラムを編成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 専攻する言語の実践的な言語コミュニケーション能力を高めるため、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を教える科目をバランスよく配置する。 2. 言語コミュニケーション能力に加え、異文化理解能力を高めるため、専攻する言語を使用する地域へ赴き、実践的かつ体験的な学修を行う科目を配置する。 3. 専攻する言語が使用される国や地域への理解を深めるため、その国や地域の文化・歴史・社会を学ぶ科目を設置する。 4. 国際社会や地域社会が直面する課題に取り組む態度と能力を高めるため、演習科目や実践的な学修を行う科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy)
(概要) 外国語学部は、外国語の修得と異文化理解を介して、グローバル化する今日の国際社会が生み出す諸問題に対処するとともに、日本を世界に向けて発信することができる人材の育成を目指します。 言語修得は長い時間と努力を要するプロセスです。それを楽しみながら成し遂げるためには、総合的な基礎学力と教養、主体的に学ぶ姿勢、コミュニケーションへの積極性、異言語・異文化に対する好奇心とチャレンジ精神などいくつかの条件が必要です。

高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 努力を惜しまず主体的に学ぶ意欲を有する。
2. 未知なる世界に好奇心を抱き、飛び込んでいく勇気を有する。
3. 人とのコミュニケーションを楽しむことができる態度と能力を有する。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）

（概要）

教育学部は、本学の建学精神に則り、教育と社会に関する諸科学の基礎的理論、学校・保育所等における教育や保育及び生涯学習に係る知識・技能を歴史的、実践的、多面的に学習し、広く教育についての理解と認識を深めることを目指す。そして、豊かな人間性を備え、時代の動向を的確に捉え、社会の進展に寄与する人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

教育学部は、教育が個人及び国家・社会の形成者の育成を図る基盤であることを踏まえ、教育の理論と実践に関する知見と能力を備えた人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 教育と社会に関する諸課題への関心をもち、専攻した教育的専門知識や技能を生かし、その理解と解決に務めようとする態度を身につけている。
2. 教育に関わる職業や社会生活に必要な人間関係・社会形成能力及び、使命感・責任感等を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

学位授与に要求される能力を修得するため、教育学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 教育と社会に関する諸課題を広い視野から学修できるようにするため、初年次の必修科目「教育学入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめ、教育や人間、子どもへの理解を深めるための専門科目を配置する。
2. 将来の職業や資格取得を視野に入れ、学校教育や生涯学習に関わる知識・技能を実践的に学修する資格課程科目、臨床系科目や現代教育課題系科目等の選択必修・選択科目を配置する。
3. 国際化や情報化等の社会の進展に即し、教育・保育・その他の職業分野で責任ある役割を果たすために必要な知識と技能を身に付ける実践的な専門教育科目を配置する。
4. 教育者や社会人、職業人として主体的に学び続ける上での基礎を培うために、探究的な学修を行う「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、「教育研究リテラシーⅠ・Ⅱ」、「教育学演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育学部では、教育諸科学の理論と教育実践との融合を図り、広く豊かな教養と視野および専門的知識・技能を育成するとともに、現在、教育の現場から求められている「生きる力」をはぐくみ「生涯にわたり学び続けることのできる姿勢」を涵養するための教育研究活動を展開する中で、主として、中等教育に携わる人材、初等教育に携わる人材、幼稚園教諭と保育士の複数免許を所持し就学前教育に携わる人材、および生涯教育の場などにおいて幅広く教育にかかわる仕事に携わる人材の育成を目指します。</p> <p>高等学校等においては、教科の学習において確かな学力を身に付けるだけでなく、学校内外における多様な活動や体験に積極的に参加し、豊かな心や社会性を育み、健やかな身体の成長を図り、社会の様々な事象に幅広く関心を持つことが重要です。</p> <p>高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような資質・能力を備えた入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広く人間、教育と社会に関心をもち、それらについて学ぶ意欲、生涯にわたり学び続ける姿勢を有する。 2. 自ら目標を定め、学び抜くたくましさを備えている。 3. 教育や保育に熱意をもち、それらに携わる者として自ら律する倫理観と責任感を有する。

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、建学の精神に則り、日本と世界の経済・企業に関する実践的・理論的な知識とスキルの涵養を通じて、創造性あふれる経済社会とビジネスモデルの構築に寄与できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、日本経済が直面する国民的課題やビジネスの場で生起する問題の解決に取り組み、また、地域の経済社会の発展や観光ホスピタリティ産業および観光まちづくりの推進に寄与する人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と世界の経済、地域経済、企業経営および観光にかかわる基礎的理論・知識を修得する。 2. 基礎的理論・知識を応用して日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光が直面する諸問題に取り組む能力を修得する。 3. 問題解決に取り組むために必要な行動力、主体性、教養、倫理観を修得する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、経済学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次から3年次まで少人数教育の履修を通じて、プレゼンテーション能力、コ

<p>コミュニケーション力、問題解決能力を養う。</p> <p>2. 学部共通の入門科目と必修度の高い学科ごとの選択必修科目の履修を通じて、日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光に関する基礎的な理論・知識を修得する。</p> <p>3. 選択必修科目・選択科目の履修を通じて、日本と世界の経済、地域経済、企業経営、観光にかかわる問題解決能力を養う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、国際的視点から日本とアジアおよび世界の経済と企業に関する実践的・理論的な知識とスキルを学修することにより、今日の経済・企業が直面する複雑な諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>高等学校等における学習と生活の中で、理解力・思考力など基礎学力と経済や社会に対する幅広い関心を培うと同時に、さまざまな課題に意欲と責任感をもって取り組む積極性を育み、他者とのコミュニケーション力を養うことが期待されます。</p> <p>高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理解力・思考力、コミュニケーション力等の基礎学力を備え、入学後、日本とアジアおよび世界の経済・企業に関して意欲的に学習することができる。 2. 経済や社会に対して幅広い関心を持ち、入学後、日本とアジアおよび世界の経済・企業に関する勉学に意欲的に取り組むことができる。

<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>法学部は、建学の精神に則り、教育指針である「実学」「国際性」「開放性」を通して、法律・政治についての基礎知識を修得すると共に、バランスのとれた判断力・論理的思考力や既存の学問領域の垣根に囚われない柔軟な発想力を有する人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>法学部は、法律・政治についての基礎知識を修得すると共に、バランスのとれた判断力・論理的思考力を有する人材を養成することを目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律学・政治学に関する基本的な知識を有し、現代社会における諸問題の論点を把握することができる。 2. 法律学・政治学に関する基本的な知識を応用し、自分なりの考え方を表現することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、法学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章力、論理的思考力やディスカッション能力を修得させるために、少人数編成からなる、1年次の「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次の「基礎教養演習Ⅰ・Ⅱ」

<p>および3・4年次の「演習Ⅰ～Ⅳ」を必修とする。</p> <p>2. 国際性や幅広い豊かな教養を身につける見地から、英語について、1・2年次においては週1コマを必修とするほか、総合基礎科目として12単位を選択必修とする。</p> <p>3. 専門科目については、コース制を導入し、1年次生向けに必修科目を設けるほか、専門選択必修科目群を置く。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>法学部は、建学の精神に則り、教育指針である「実学」「国際性」「開放性」を通して、法律・政治についての基礎知識を修得するとともに、バランスのとれた判断力と、論理的思考力を有する人材を育成することを目指しています。</p> <p>法や政治について学ぶことは、「高度に複雑化する現代社会の問題点を的確に把握し、論理的思考力を用いて、将来の指針を見出していくこと」であり、そのための広い視野と知識が求められます。したがって、高等学校等において基本とされる教科を幅広くしっかりと勉強することが極めて大事となります。</p> <p>高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に対する高い関心と勉学意欲を有し、自分の考えを的確に表現し伝えることができる。 2. 入学後の修学に必要な学力を有し、広い視野を持って、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。 3. 自分とは異なる他者と関わり、積極的にコミュニケーションを図る意欲を有する。

<p>学部等名 医学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>医学部は、建学の精神に則り、将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術を修得し、総合的視野と判断力および人間性を身につけて、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応ができるよき医師を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>医学部は、医学・医療の発展に寄与するために最新の医学知識と技量を身につけ、多様な医療を提供できるよき医師の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. よき医師として、将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術および態度・習慣を修得し、生涯にわたる学修の素地を身につけることができる。 2. 自ら問題を的確にとらえて解決する能力と創造性を身につけ、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応することができる。 3. 医療を自然科学のみならず、その背景にある精神的・社会的問題を関係づけて考えることができるとともに総合的視野と判断力および人間性を身につけることができる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、医学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共通教育科目は、豊かな人間性、医学・医療に不可欠な倫理観、基礎的コミュニケーションスキル、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を身につけることを目的とした科目を編成する。 2. 専門基礎科目は、専門的知識・技術を学ぶ上で必要な各領域の基礎医学に関する科目を編成するとともにチーム医療の理解を深めるためアーリー・エクスポージャー（早期臨床体験）に関する科目を編成する。 3. 専門科目は、現代医療を担う一員として必要な臨床医学ならびに診断・検査・治療に関する科目を編成する。また、すべての医学知識や技術的な側面の理解を深め、医師としてあるべき態度を学ぶため各診療科の臨床実習を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>医学部は、最新の医学・医療に習熟した専門医、チーム医療の中核を担う臨床医、在宅、僻地等で医療を支える地域医療従事者など、社会のニーズを満たすよき医師の育成を目指しています。</p> <p>心身共に健康であり、実習を含む6年間の医学教育に適応でき、かつ高等学校等における幅広い学修を通じて、次のような資質を備えている入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学を学ぶ上で必要な基礎学力を有している。 2. 高い倫理観と奉仕の心を備えている。 3. 協調性とコミュニケーション能力を有している。 4. 自立した学習態度、問題解決能力を有している。 5. 医学に対する強い熱意・関心・意欲を有している。

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部は、建学の精神に則り、高度の専門知識・技能と豊かな人間性を基盤とした実務実践力に加えて、研究心や課題発見・問題解決能力、自己研鑽能力があり、医療チームや地域社会において信頼される薬剤師として、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部は、科学の進歩に伴う医療の高度化、少子高齢化社会における地域医療連携と国民の健康維持・増進という観点から、社会や医療現場の期待に応え、地域住民や個々の患者のニーズに対応できる薬剤師の養成を目指している。卒業時の学習成果（アウトカム）として以下の修得目標に掲げる能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として温かい人間性と高い倫理観を持ち、他者の尊厳や人権等に配慮して誠実に行動し、自己研鑽に努め、プロフェッショナリズムに基づき行動できる。

2. コミュニケーション力により患者、家族、医療チームのメンバーと信頼関係を築き、連携して、患者中心の視点でチーム医療に参画できる。
3. 医薬品の物理的・化学的特性を考慮し、求められる医療に必要な医薬品の調製と取扱いを適正に行うことができる。
4. 科学的根拠の下に医薬品等が生体に及ぼす影響を理解し、適切で効果的な薬物治療を実施できる。
5. 地域における保健・医療・福祉の資源を活用し、地域医療連携を通して、地域住民の健康維持・増進を支援できる。
6. 基礎、臨床および社会薬学領域での研究の意義を理解し、医療における問題点を科学的・論理的に考え、薬学的視点から問題解決を推進する姿勢を示すことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。
<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で要求される能力を修得するために、薬学部では、学習成果（アウトカム）基盤型教育の考え方に基づいて、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤として、ディプロマ・ポリシーに掲げられた6つのアウトカムを身につけることを目指す。
2. 修得目標1-A（倫理観とプロフェッショナリズム）は、多様な分野の教科において幅広く取り上げ、すべての学年を通して醸成する。できる限り実習、討議を加えた学習方法で実施し、求められる技能・態度に適した評価方法で評価する。
3. 修得目標1-B（チーム医療を通じた患者中心の医療への参画）は、豊かな人間性に基づく信頼関係を築き、コミュニケーション能力を高めることを目的としており、本学部の特徴として特に重視する。学年進行に伴った順次性あるらせん型のヒューマニティ・コミュニケーション教育カリキュラムを構築し、医学部・医療技術学部と共同で医療系学部横断型の多職種連携教育（IPE）を実施し、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を行う。
4. 修得目標1-C（医薬品の適正な調製と取扱い）、修得目標1-D（薬物治療の実践）、修得目標1-E（国民の健康維持と地域医療への貢献）を中核とした薬学専門教育では、学年進行に伴った順次性あるらせん型カリキュラムを構築し、科学的根拠に基づいた薬剤師としての能力を効果的に醸成する。入学時から4年次前期に渡り、講義等で幅広い薬学専門知識を身につけ、実習や演習を通して知識の活用力や問題解決能力を醸成する。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価する。4年次後期以降では、統合型演習や実務実習を中心に、より実践的な学修環境を提供し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。
5. 修得目標1-F（科学的探究心）は、1～3年次の基礎系薬学実習を基盤として、主に4～6年次の卒論実習（卒業研究）を通して醸成する。より深い科学的・論理的な思考力、課題発見・問題解決能力とともに、能動的に学ぶ姿勢や自己研鑽能力を涵養し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。
6. 卒業時に求められる総合的な学修成果については、知識は客観試験や論述試験で、薬剤師としての実務能力はポートフォリオ等で、卒業研究はルーブリックを用いたパフォーマンス評価でそれぞれ評価する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>薬学部は、確かな知識と技能に基づく実務実践能力、洞察力と探究心に基づく課題発見・問題解決能力を有し、多職種連携の中で薬物療法のプロフェッショナルとして患者・生活者に寄り添い活躍できる薬剤師、広く社会から信頼される薬剤師の養成を目指しています。</p> <p>心身共に健康であり、実習を含む6年間の薬学教育に適応でき、かつ高等学校等における幅広い学修を通じて、次のような資質を備えた入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康と福祉に貢献したいという高い志と強い意欲を有している。 2. 薬学に関する知識を修得する上で必要な基礎学力と論理的思考力を有している。 3. 最新の知識・技能を修得する向学心と、課題発見・問題解決のための探求心を有している。 4. 協調性があり、適切な語学力とコミュニケーション能力を備えている。

<p>学部等名 理工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部は、建学の精神に則り、基礎科学や工学系分野、生物学系分野にかかわる幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができる人材の育成を目指す。各分野において、実験、実習に重点をおいた理論から実践に亘る実学教育により、創造力および人間味豊かな専門性を持った人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部は、機械・精密システム工学、航空宇宙工学、情報電子工学、情報科学通信教育課程、バイオサイエンスから構成されている。各分野によって専門性や教育の重点は異なるが、その基本は建学の精神を具現化することにある。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学、社会科学、自然科学系科目、外国語等の総合基礎科目と、数学、物理学、化学、情報基礎等の専門基礎科目を学び、さらに専門科目を通じて幅広い知識を身につけ、種々の応用課題に柔軟に取り組むことができる。 2. 国際的視野に立って判断する素養を培い続けるために、各専門分野に関連した領域においてコミュニケーション能力を十分に発揮できる。 3. 実学を通して体得した人間味豊かな専門性と創造力を発揮し、多くの課題に対処することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、理工学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合基礎科目および専門基礎科目を通じて各専門を究めるのに十分な基礎学力を高め、さらに専門科目を通して各分野で幅広い知識、応用力を高める。 2. 国際性への対応能力向上のため、総合基礎科目の人文科学、社会科学、自然科学系科目や英語等の外国語および専門科目、実験等を通して各専門分野に応じた発信、コミュニケーション能力を逐次向上させる。

<p>3. 講義形式の授業のみならず、実験、演習、課外授業体験、卒業研究、発表体験等の実学を通して創造力の醸成を行う。</p> <p>4. 人間性を高めるために、授業、実験、卒業研究等を通して教師と学生の人間的つながりを重視する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部は、さまざまな問題が地球規模で複雑に絡み合った現代社会において、幅広い教養と専門分野の知識と技術を身につけ、国際的視野に立って判断ができ、創造力および人間味豊かな専門性を持った社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <p>理工学部では、専門分野の知識と技術を基に、新しい物や方法の開発、未知の事象の発見などを、他者と協働して成し遂げるプロセスを学びます。そのため、理工学の学修の基礎となる理数系の知識に加え、新たな知識や概念を獲得するための思考力、語学力、および協調的な態度を身につけていることが重要となります。高等学校等における学修や活動を通じて、次のような能力・素養・意欲を備えた入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望する専門学科の学修や、新しい知識や概念の獲得に必要な基礎学力を持っている。 2. 何事にも興味を持つ好奇心、種々の課題にチャレンジする積極性、他者と良好なコミュニケーションを取ろうとする協調性を持っている。 3. 理工学の専門分野を主体的に学ぼうとする強い意欲を持っている。

<p>学部等名 医療技術学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>医療技術学部は、建学の精神に則り、現代医療を担う一員に必要な専門的知識・技能、および教養・倫理を修得し、社会に貢献できるよき人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>医療技術学部は、高い教養と倫理観を有し現代医療を担える専門技能職として社会に貢献できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性・倫理観を有し、コミュニケーションスキルを活用して人間関係が形成できる。 2. 各学科が掲げる基本的医療知識を有し、その医療技術を実践することができる。 3. 医療の高度化と国際化、社会情勢の変化に関心を持ち、生涯学習の自覚を有する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎分野は、豊かな人間性、国際性ならびに医療人として必要な基礎的知識を身につ

<p>けることを目的とした科目を編成する。</p> <p>2. 専門基礎分野は、各学科の基本的知識・技術を学ぶ上で必要な基礎医学などを身につけることを目的として各分野の医療系基礎科目を編成する。</p> <p>3. 専門分野は、現代医療を担う一員として必要な専門的知識・技術を学ぶための科目を編成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>医療技術学部は、現代のチーム医療に必須の専門医療に寄与するため、よき視能訓練士、看護職者、診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士、柔道整復師の育成とともに、健康社会の促進に貢献するため、優れたスポーツ指導者・教育者・競技者の育成を目指しています。</p> <p>心身共に健康であり、実習を含む4年間の教育に適応でき、かつ高等学校等における幅広い学修を通じて基礎学力を有している学生で、次のような資質を備えている入学者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の命の大切さを理解できる。 2. 倫理の重要性を理解できる。 3. 協調性を有している。 4. 医療やスポーツ・健康への強い意欲を有している。

<p>学部等名 福岡医療技術学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/education/univ_purpose）</p>
<p>（概要）</p> <p>福岡医療技術学部は、建学の精神に則り、高度医療を担う一員として必要な専門的知識・技能および教養・倫理を修得し、豊かな人間性と創造性を備え、地域医療に貢献できる医療技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>福岡医療技術学部は、高度医療を担う一員として必要な専門的知識・技能および豊かな人間性と創造性を備え、地域医療に貢献できる医療技術者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的医療技術者として必要な基礎的知識、技能の素地を身につけ、これを実際の医療現場等において効果的に実践することができる。 2. 「技術は心」という観点から、医療技術者として求められる人間尊重の倫理観と使命感を理解し、いたわりの心を持って接することができる。 3. 国際的視野での幅広い教養と豊かな人間性を備え、各地域でのチーム医療を担う一員として効果的な連携を図る態度を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位授与に要求される能力を修得するために、福岡医療技術学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養分野では、医療技術者として必要な倫理観、コミュニケーション能力、国際的な

どの豊かな人間性を学修するための科目を配置する。

2. 専門基礎分野では、医療技術者として必要な専門的知識・技能を修得するため、その基盤となる基礎医学や臨床医学に関する科目を配置し、この上に専門分野科目を系統的に配置する。
3. 専門分野では、実践的スキルを養うため、演習や実習に加え、学外での臨床実習、臨地実習の科目を効果的に配置する。
4. 多様な学生の主体的な学習を促進するため、一般教養と専門分野の特色ある選択科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにより、公表している。
<https://www.teikyo-u.ac.jp/university/ed-policy>）

（概要）

福岡医療技術学部は、高度医療を担う一員として必要な知識・技能を有し、いたわりの心や国際的視野を持って、地域の医療や保健、福祉などに貢献できる人材の育成を目指しています。

このため、高等学校等での基本的な知識の学習に加え、学校行事や地域活動などに積極的に参加して、自主性・社会性・協調性を身につけておくことが重要です。

心身共に健康であり、実習を含む4年間の教育に適応でき、かつ高等学校等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 明確な目的意識を持ち、主体的な学習ができる。
2. 他者の意見や助言を聞き、自分の考えを的確に表現することができる。
3. 偏見を持つことなく、他者と積極的に関わり、相互理解に努めようとする態度を有している。
4. 人々の病気や障害、健康に関心を持ち、いたわりの心を持った医療専門職として社会貢献する強い意欲を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにより、公表している。
https://www.teikyo-u.ac.jp/university/basic_info/administration

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	30人	25人	21人	6人	0人	82人
外国語学部	—	15人	15人	13人	5人	0人	48人
教育学部	—	20人	16人	9人	6人	0人	51人
経済学部	—	67人	26人	24人	2人	0人	119人
法学部	—	14人	7人	10人	10人	0人	41人
医学部	—	137人	53人	98人	108人	150人	546人
薬学部	—	30人	17人	24人	21人	5人	97人
理工学部	—	28人	10人	11人	3人	2人	54人
医療技術学部	—	44人	35人	33人	28人	13人	153人
福岡医療技術学部	—	28人	14人	20人	18人	1人	81人
理工学部（通信課程）	—	2人	2人	0人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		822人					823人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/search/index.html?lang=ja&template=template1						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	741人	806人	108.8%	3,017人	3,047人	101.0%	14人	11人
外国語学部	400人	376人	94.0%	1,414人	1,343人	95.0%	7人	1人
教育学部	330人	325人	98.5%	1,400人	1,299人	92.8%	35人	2人
経済学部	1,570人	1,694人	107.9%	6,441人	6,337人	98.4%	68人	22人
法学部	475人	480人	101.1%	1,917人	1,820人	94.9%	6人	人
医学部	116人	117人	100.9%	704人	747人	106.1%	人	人
薬学部	320人	354人	110.6%	1,920人	1,897人	98.8%	人	人
理工学部	265人	252人	95.1%	1,060人	985人	92.9%	若干名	1人
医療技術学部	910人	941人	103.4%	3,640人	3,488人	95.8%	人	人
福岡医療技術 学部	340人	295人	86.8%	1,360人	1,184人	87.1%	人	人
理工学部（通 信課程）	200人	159人	79.5%	800人	860人	107.5%	人	人
合計	5,667人	5,799人	102.3%	23,673人	23,007人	97.2%	130人	37人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)		その他
			就職者数	その他	
文学部	673人 (100%)	34人 (5.1%)	514人 (76.4%)	125人 (18.6%)	
外国語学部	237人 (100%)	1人 (0.4%)	195人 (82.3%)	41人 (17.3%)	
教育学部	249人 (100%)	10人 (4.0%)	205人 (82.3%)	34人 (13.7%)	
経済学部	1,431人 (100%)	27人 (1.9%)	1,180人 (82.5%)	224人 (15.7%)	
法学部	424人 (100%)	8人 (1.9%)	348人 (82.1%)	68人 (16.0%)	
医学部	123人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	123人 (100.0%)	
薬学部	279人 (100%)	1人 (0.4%)	236人 (84.6%)	42人 (15.1%)	
理工学部	183人 (100%)	35人 (19.1%)	127人 (69.4%)	21人 (11.5%)	
医療技術学部	790人 (100%)	17人 (2.2%)	682人 (86.3%)	91人 (11.5%)	
福岡医療技術 学部	294人 (100%)	10人 (3.4%)	247人 (84.0%)	37人 (12.6%)	
合計	4,683人 (100%)	143人 (3.1%)	3,734人 (79.7%)	806人 (17.2%)	

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>・ 授業計画書（シラバス）の作成過程 授業を担当する教員にはシラバス作成のガイドラインを配布しており、予めシラバス作成の手順について周知している。次年度の担当科目が決定次第、教員はガイドラインに従いシラバスの原稿を作成し、各学部の教務担当事務へ提出。記載内容について第3者（担当教員及び事務部）のチェックを受け、必要に応じて加筆修正を行い、完成する。</p>
<p>・ 主な記載内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の概要…授業の全体を把握できるようにするとともに、授業の趣旨、学びの方向性を記載する。学生が、学ぶ意識を理解し、学修への動機づけを高めることを目指す。 ② 授業の到達目標…当該科目が、学部等がディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果のうちどの部分を担っているかに留意し、「〇〇できる」等の表現にて示す。また、到達度を成績評価に結びつけられるよう、観察可能な具体的内容を記載し、学生にわかり易いように一つの文章に対し一つの到達目標とする。 ③ 成績評価の方法および基準…単位認定の判断材料となるレポート課題、小テスト、試験等の評価の割合を%で明記する。出席点は含めない。評価にあたり、到達目標に掲げる能力の達成度を判定できる評価方法となっているかに留意する。また、評価基準は測定可能なものとし、採点根拠が明確となるようにする。なお、成績評価の基準は、全ての科目において同一にS・A・B・C・Dで表し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とするため、授業科目ごとのシラバスには掲載していない。 ④ 授業形態…講義、演習、実験、実習、実技の別を記載。複数の組み合わせの場合は、そのすべてを記載。 ⑤ 各回の授業内容（年間の授業の計画）…学生の予習等の参考となるように、各回の具体的な授業内容を記載する。 ⑥ 教科書・参考資料…授業で使用し、学生が購入することが必要なもののみ記載。 ⑦ 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間…学生の主体的な学修を促すため、予習・復習について具体的な内容とかかる時間を記載する。

- ⑧ その他履修上の注意事項…学生が授業に臨む態度、学生の責任について記載。
また、当該科目履修の前提となる科目や、今後履修すべき科目について記載。
- ⑨ 実務経験のある教員による授業…担当教員が実務経験を有しており、担当授業科目が実務経験に関連する場合は、実務経験を基にどのような授業を行うかを記載。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業科目の授業計画（シラバス）への記載等において、学生に対し予め周知された成績評価の方法（筆記試験、実技試験、レポート課題、小テスト等）および基準（S・A・B・Cは合格、Dは不合格）により、厳格かつ適正に学修成果を評価し、合格者に対し単位の授与を実施している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文化学科	124 単位	有・無	単位
	史学科	124 単位	有・無	単位
	社会学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
外国語学部	外国語学科	124 単位	有・無	単位
	国際日本学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育文化学科	124 単位	有・無	単位
	初等教育学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
	国際経済学科	124 単位	有・無	単位
	地域経済学科	124 単位	有・無	単位
	経営学科	124 単位	有・無	単位
	観光経営学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	単位
	政治学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	1 単位 ※医学部にあつては、共通教育科目 10 単位と専門基礎科目及び専門科目においては、必修科目を全科目修得し、かつ総合試験及び卒業試験に合格しなければならない。	有・無	単位
薬学部	薬学科	192 単位	有・無	単位
理工学部	機械・精密システム工学科	124 単位	有・無	単位
	航空宇宙工学科	124 単位	有・無	単位
	情報電子工学科	124 単位	有・無	単位
	バイオサイエンス学科	124 単位	有・無	単位
医療技術学部	視能矯正学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	124 単位	有・無	単位
	臨床検査学科	125 単位	有・無	単位
	スポーツ医療学科	124 単位	有・無	単位
	柔道整復学科	125 単位	有・無	単位
福岡医療技術学部	理学療法学科	127 単位	有・無	単位

	作業療法学科	127 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
	診療放射線学科	128 単位	有・無	単位
	医療技術学科 救急救命士コース	124 単位	有・無	単位
	医療技術学科 臨床工学コース	126 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにより、公表している。

<https://www.teikyo-u.ac.jp/campus>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医	医 1 年	3,150,000 円	1,050,000 円	5,170,140 円	
	医 2・3・4 年	3,150,000 円		2,852,000 円	
	医 5・6 年	3,000,000 円		2,716,000 円	
薬	薬 1 年	1,470,000 円	368,000 円	672,180 円	
	薬 2・3・4 年	1,470,000 円		665,000 円	
	薬 5・6 年	1,400,000 円		633,000 円	
経済	経済 1 年	819,000 円	263,000 円	269,660 円	
	経営 1 年				
	観光経営 1 年				
	国際経済 1 年			285,660 円	
	経済 2・ 3・4 年	819,000 円		250,000 円	
	経営 2・ 3・4 年				
	観光経営 2・3・4 年				
	国際経済 2・3・4 年				
	地域経済 1 年	777,000 円	263,000 円	216,660 円	

	地域経済 2・3・4年	777,000円		197,000円	
法	法律1年	819,000円	263,000円	269,660円	
	政治1年				
	法律2・ 3・4年	819,000円		250,000円	
	政治2・ 3・4年				
文	日本文化1 年	819,000円	263,000円	269,660円	
	史1年				
	社会1年				
	日本文化 2・3・4年	819,000円	263,000円	250,000円	
	史2・3・4 年				
	社会2・ 3・4年				
	心理1年	819,000円	263,000円	290,660円	
	心理2・ 3・4年	819,000円		271,000円	
外国語	外国語英語 コース1年	819,000円	263,000円	280,660円	
	外国語英語 コース2・ 3・4年	819,000円		261,000円	
	外国語 ドイツ語コ ース1年	819,000円	263,000円	269,660円	
	フランス語 コース1年				
	スペイン語 コース1年				
	中国語コ ース1年 コリア語コ ース1年				
	国際日本学 科1年				
	外国語 ドイツ語コ ース2・ 3・4年	819,000円		250,000円	
	フランス語 コース2・ 3・4年				
	スペイン語 コース2・ 3・4年				

	中国語コース2・3・4年				
	韓国語コース2・3・4年				
	国際日本学科2年				
教育	教育文化 1年	819,000円	263,000円	269,660円	
	初等教育 初等教育 コース 1年	819,000円	263,000円	290,660円	
	初等教育 こども教育 コース 1年	819,000円	263,000円	311,660円	
	教育文化 2・3・4年	819,000円		250,000円	
	初等教育 初等教育 コース 2・3・4年	819,000円		271,000円	
	初等教育 こども教育 コース 2・3・4年	819,000円		292,000円	
理工	機械・精密 システム工 1年 情報電子工 1年 バイオサイ エンス1年	956,000円	263,000円	451,660円	
	航空宇宙工 航空宇宙工 学コース1 年	956,000円	263,000円	451,660円	
	航空宇宙工 ヘリパイロ ットコース 1年	956,000円	263,000円	2,343,660円	

	機械・精密システム工 2・3・4年 情報電子工 2・3・4年 バイオサイエンス2・ 3・4年 航空宇宙工 航空宇宙工 学コース 2・3・4年	956,000 円		432,000 円	
	航空宇宙工 ヘリパイロ ットコース 2年	956,000 円		2,324,000 円	
	航空宇宙工 ヘリパイロ ットコース 3年	956,000 円		6,879,000 円	
	航空宇宙工 ヘリパイロ ットコース 4年	956,000 円		820,000 円	
	情報科学科 (通信課 程) 1年	154,020 円	30,600 円		
	情報科学科 (通信課 程)2・3・ 4年	154,020 円			
	医療技術	視能矯正1 年	1,050,000 円	263,000 円	547,620 円
視能矯正 2・3・4年		1,050,000 円		542,000 円	
看護1年		1,103,000 円	263,000 円	736,620 円	
看護2・ 3・4年		1,103,000 円		731,000 円	
診療放射線 1年		987,000 円	263,000 円	631,620 円	
診療放射線 2・3・4年		987,000 円		626,000 円	
臨床検査1 年		1,050,000 円	263,000 円	631,620 円	
臨床検査 2・3・4年		1,050,000 円		626,000 円	
スポーツ医 療		945,000 円	263,000 円	484,300 円	

	健康スポーツコース1年				
	スポーツ医療 健康スポーツコース 2・3・4年	945,000円		464,000円	
	スポーツ医療 救命救急士 コース1年	945,000円	263,000円	681,620円	
	スポーツ医療 救命救急士 コース2・ 3・4年	945,000円		676,000円	
	スポーツ医療 トップアス リートコー ス1年	819,000円	263,000円	342,300円	
	スポーツ医療 トップアス リートコー ス2・3・4 年	819,000円		322,000円	
	柔道整復1 年	1,050,000円	263,000円	643,300円	
	柔道整復 2・3・4年	1,050,000円		623,000円	
	福岡医療技術	理学療法1 年	945,000円	263,000円	499,370円
作業療法1 年					
看護1年					
診療放射線 1年					
医療技術学 科 救急救命士 コース1年 臨床工学コ ース1年					
理学療法 2・3・4年		945,000円		494,000円	
作業療法 2・3・4年					
看護2・ 3・4年					
診療放射線 2・3・4年					

医療技術学科 救急救命士 コース2・ 3・4年				
臨床工学コ ース 2・3・4年				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 学生の主体的学びを支援し、グループ学習等の多様な学修スタイルに対応するラーニング・コモンズや、授業内容及び学修の方法などの相談を受ける学習支援室の開設、インターネットを介して教材の配布や小テストの実施、課題レポートの提出受付、講義ビデオの視聴などを行う授業支援システム（LMS）など、各キャンパスにおいて特色を生かした学修支援の取り組みが行われている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 在学生および卒業生に対し、各キャンパスに開設している「キャリアサポートセンター」が、面談、セミナー、ガイダンスなどの様々なイベントを開催し、就職活動をサポートしている。また、民間企業や地域と提携した、無料の就職支援も行っている。 医療系学部のあるキャンパスにおいては、就職支援のほか、国家試験対策として学生希望による学内の教員の解説講義を行うなどの取組みが行われている。 上記の様に、将来なりたい自分になれるように、さまざまな形で支援を行うことで、学生のうちから自らの資質に目を向け、将来へのビジョンが明確となるよう、進路選択の支援に取り組んでいる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 各キャンパスにおける学生サポートは、学生生活、心身の健康、人間関係といったあらゆる悩みや相談に応じる体制を整えている。心の悩みについての相談は個室面談室を設けるなど、プライバシーに配慮した対応がなされている。 また、保健室における応急処置はもちろんのこと、学生に対し定期健康診断を実施するなど、健やかな学生生活が送れるように、健康管理を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにより、公表している。 https://www.teikyo-u.ac.jp/disclosure

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103769
学校名	帝京大学
設置者名	学校法人 帝京大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		804人	812人	838人
内 訳	第Ⅰ区分	476人	486人	
	第Ⅱ区分	192人	199人	
	第Ⅲ区分	136人	127人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				839人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	18人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	24人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	69人		
計	108人		
(備考) 単位不足および連続警告となった者（重複）が3人			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	11人
3月以上の停学	0人
年間計	11人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	146人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	149人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。